

令和 6 年度

事業報告書

春日井市飛行場周辺対策市民協議会

目 次

I	要望活動（県内、大阪、東京）	1
II	他空港調査	9
III	航空機の緊急着陸に伴う申入	12
IV	航空機の部品落下に関する申入	18
V	航空機の部品落下に関する報告	20

I 要望活動（県内、大阪、東京）

実施日	要望活動	要望先
令和6年7月19日	県内要望	愛知県、名古屋空港事務所、東海防衛支局 航空自衛隊小牧基地、三菱重工株式会社
令和6年7月26日	大阪要望	国土交通省大阪航空局
令和6年8月2日	東京要望	防衛省

要望内容一覧

要望事項	① 愛知県	② 空港 事務所	③ 防衛省	④ 東海 防衛 支局	⑤ 小牧 基地	⑥ 三菱 重工	⑦ 大阪 航空局
小牧基地の基地機能強化について							
1 小牧基地の基地機能強化について	○	○	○	○	○		
2 他基地所属の自衛隊機や米軍機の空港利用について			○	○	○		
地域住民に不安を生じさせる飛行について							
3 地域住民に不安を生じさせる飛行について	○	○	○	○	○		○
安全飛行の確保について							
4 安全飛行の確保について	○	○	○	○	○	○	○
5 安全飛行の確保における情報提供について	○	○	○				
F35について							
6 F35の情報提供について	○	○	○	○			
騒音の低減について							
7 運用時間について	○	○	○	○	○		
8 飛行コース、高度、時間帯等について	○	○	○	○	○	○	
9 航空機の低騒音化について			○	○	○		
10 騒音対策・騒音対策区域の見直しについて	○	○	○	○	○		
11 配慮について			○	○	○	○	
空港周辺対策について							
12 周辺環境対策事業の実施について	○	○					
13 エアフロントオアシスについて	○	○					○
14 コンクリート板塀の更新について			○	○	○		
15 名古屋空港周辺環境対策協議会の活動支援について	○	○				○	
落下物対策について							
16 落下物対策の検討について	○	○					
情報提供について							
17 情報提供について	○	○	○	○	○		

要望内容（県内、大阪、東京）

要望事項	1 小牧基地の基地機能強化について
要望先	①愛知県 ②名古屋空港事務所
内容	小型機の拠点空港である県営名古屋空港については、航空自衛隊小牧基地の空港とならないよう、設置管理者として努めること。
回答	基地機能強化に対し強い懸念を示す地元要請を踏まえ、小型航空機の拠点空港として設置したものであり、地元市町や経済界と一体となって、利用促進に取り組んでいく。
要望先	③防衛省 ④東海防衛支局 ⑤航空自衛隊小牧基地
内容	小牧基地については、航空輸送及び航空教育を中心とする現行の体制を維持し、防衛関係予算が大幅に増額される中、生活環境の悪化を招くような基地機能強化を行わないこと。
回答	③防衛省④東海防衛支局 航空自衛隊小牧基地の現行の体制について、現在のところ新たな部隊や新たな機種種の航空機を配備する等の具体的な変更計画はない。
	⑤航空自衛隊小牧基地 基地の体制については、防衛省の計画により整備されている。

要望事項	2 他基地所属の自衛隊機や米軍機の空港利用について
要望先	③防衛省 ④東海防衛支局 ⑤航空自衛隊小牧基地
内容	米軍機や定期的業務以外での他基地所属機の利用は必要最小限のものにすること。
回答	自衛隊戦闘機の修理や米軍機の燃料補給、その他小牧基地所属以外の自衛隊機が任務訓練のため定期的業務以外に使用することを御理解いただきたい。

要望事項	3 地域住民に不安を生じさせる飛行について
要望先	①愛知県 ②名古屋空港事務所 ③防衛省 ④東海防衛支局
	⑤航空自衛隊小牧基地 ⑦大阪航空局
内容	県営名古屋空港周辺は住宅密集地であることを十分に考慮し、地域住民が不安に感じる飛行は行わないこと。
回答	①愛知県 ②名古屋空港事務所 苦情、御提案、御要望等は、その都度、運航者にその内容を伝え、小牧基地等に対し申入れを行っている。今後とも名古屋空港を利用する運航者に伝えていく。
	③防衛省 ④東海防衛支局 ⑤航空自衛隊小牧基地 任務遂行に必要な錬度維持のため、設定されている訓練空域や自衛隊飛行場の周辺の空域において訓練等を実施している。最低安全高度を始めとする航空法等の規定を遵守するとともに、市街地上空等を極力避けて飛行を行う等、安全運航に努める。
	⑦大阪航空局 許可手続きを必要とする飛行については法の趣旨に則り、許可要件に適合するかどうかについてしっかりと確認をしていく。

要望事項	4 安全飛行の確保について
要望先	①愛知県 ②名古屋空港事務所 ⑥三菱重工業 ⑦大阪航空局
内 容	県営名古屋空港を利用する関係機関に対し、航空機の安全運航、機材整備やパイロットの安全教育など、安全対策に万全を講じられたい。
回 答	①愛知県 ②名古屋空港事務所 航空機の緊急着陸等トラブルが発生した場合には、運航者に対し、原因究明と再発防止に加え、安全運航と点検整備の徹底を図るよう強く申入れを行っている。 また、国土交通省に併せて、安全総点検を実施している。空港内事業者に対するヒアリング、実地点検等を行い、安全輸送等に関して万全を期すよう申入れている。
	⑥三菱重工業 飛行安全に万全を期している。パイロット及び作業者の技量維持を確実にするとともに飛行安全のための社員教育にも取り組んでいる。
	⑦大阪航空局 航空会社及び航空機整備認定事業場の安全確保について、監視監督体制を強化し、立入検査等により、機材の適切な点検整備等に関する指導を行い、さらに、操縦士及び整備士等に対し安全講習会等を通して、安全運航に係る啓蒙を図るなど、指導を行っている。
要望先	③防衛省 ④東海防衛支局 ⑤航空自衛隊小牧基地
内 容	機材整備・点検の徹底、パイロットの安全教育の徹底など万全の対策を講じられたい。
回 答	自衛隊機の安全管理を徹底し、事故等の防止に努めていく。機体の整備については、飛行前後の点検のほか、各基地、補給所等において定期的な整備を行っている。飛行安全及び品質管理上、重要な構成品については、定期的な交換を行うなど、安全性を確保する措置を講じている。また、パイロットはもとより、整備についても安全教育や飛行前後の機体の整備点検等を通じ、安全確保に関する指導を行うなど、トラブル発生防止に万全を期していく。

要望事項	5 安全飛行の確保における情報提供について
要望先	①愛知県 ②名古屋空港事務所
内 容	トラブルが起きた場合、その原因や対策等の情報を速やかに提供するよう、強く働きかけられたい。
回 答	運航者に対して、トラブルが発生した場合は、速やかに事案の概要を県に報告することに加え、安全運航の徹底についてお願いしている。運航者から報道発表を行っている場合もあるが、地元の皆様にも丁寧に説明するよう働きかけていく。
要望先	③防衛省
内 容	最低安全高度の遵守状況や市街地上空を避けた飛行状況がわかる情報を提供すること。
回 答	最低安全高度など航空法等の規定は遵守しているが、個別の飛行状況については、天候等により左右される場合もあることから、飛行場周辺における飛行状況を網羅的に示すことが困難である。

要望事項	6 F35の情報提供について
要望先	①愛知県 ②名古屋空港事務所 ③防衛省 ④東海防衛支局
内容	実施スケジュール及び試験結果等について、関係者や地域住民に詳細な情報を速やかかつ丁寧に提供されたい。
回答	F35の試験飛行については、当初から飛行のスケジュールについて、関係自治体に対し、情報提供している。また、F35の整備拠点については、定期的または臨時的整備や改修等として、分解または検査のための整備作業等を行っている。F35に係る情報については、提供できるものは、速やかに提供する。

要望事項	7 運用時間について
要望先	①愛知県 ②名古屋空港事務所 ③防衛省 ④東海防衛支局 ⑤航空自衛隊小牧基地
内容	空港の運用時間を守ること。また、運用時間外の利用については、安易に公用利用としないようにするとともに、影響の大きい付近住民へ周知すること。
回答	①愛知県 ②名古屋空港事務所 県名古屋飛行場条例第2条において、運用時間は午前7時から午後10時までと定めている。なお、同条では、定期便の遅延などの場合に運用時間の臨時延長を定めるほか、第3条では、緊急時に対する運用時間外利用の許可を定めている。また、臨時延長及び運用時間外利用があった場合には、その都度周辺市町へ情報提供を行っている。 ③防衛省 ④東海防衛支局 ⑤航空自衛隊小牧基地 小牧基地においては、航空機の運航時間を従前のとおりとしている。

要望事項	8 飛行コース、高度、時間帯等について
要望先	①愛知県 ②名古屋空港事務所 ③防衛省 ④東海防衛支局 ⑤航空自衛隊小牧基地 ⑥三菱重工業
内容	騒音による影響が、同一の地域・時間帯に集中しているため、自衛隊の運用時間については従前の範囲内に収めることはもとより、訓練方法、飛行コース・高度、日程、時間帯について、速やかに見直すこと。
回答	①愛知県 ②名古屋空港事務所 航空機に関する苦情があった場合、できる限り状況を聴き取り、航空機を特定した上で、事業者には騒音を軽減するよう申入れている。小牧基地に対しても、騒音の軽減に努めるよう、また騒音ができる限り1箇所に集中しないよう、飛行コースの工夫や訓練の分散実施等も併せて要請している。 ③防衛省 ④東海防衛支局 ⑤航空自衛隊小牧基地 操縦者の技能維持・向上のため必要な離着陸訓練等を実施しているが、その際、飛行コース、時間等については、騒音の影響も考慮しながら決定している。 要望については、真摯に対応する。 ⑥三菱重工業 騒音軽減のために、テスト飛行の空域への進出経路や高度を決め、ヘリコプターは庄内川沿いを飛行ルートにするなど配慮している。

要望事項	9 航空機の低騒音化について
要望先	③防衛省 ④東海防衛支局 ⑤航空自衛隊小牧基地
内容	エンジンの低騒音化に関係機関と協力の上取り組むこと。
回答	新たな自衛隊機を開発する段階で、導入において、エンジン等の低騒音化について、留意した検討を行っているところである。小牧基地所属の航空機については、現在のところ手段がないものと認識している。

要望事項	10 騒音対策・騒音対策区域の見直しについて
要望先	①愛知県 ②名古屋空港事務所
内容	空港周辺地域への影響が著しい離着陸やエンジンランナップ、ホバリング等に伴う航空機騒音については、民間機、自衛隊機、F 3 5 整備拠点等、発生源や時間、原因等を特定し、空港管理者として影響の及ぶ範囲等の実態を把握するとともに、効果を実感できる遮音・防音対策を行うこと。
回答	空港周辺の航空機騒音については、県及び春日井市において5地点での常時監視並びに11地点での短期監視を行っており、発生元や発生時間等の分析、実態の把握に努めている。今後も騒音値の把握に努め、必要に応じて対策を行っていく。
要望先	③防衛省 ⑤航空自衛隊小牧基地
内容	自衛隊機の離発着や機体整備等に伴う騒音については、空港周辺地域への影響が著しいため、空港設置管理者である愛知県に対し、実効性ある対策の実施を働きかけること。また、小牧基地におけるランナップエリアの土手の効果を検証・報告し、真に効果のある対策を講じること。
回答	小牧基地のランナップエリア周辺には、地上騒音の低減に資するよう土手を設置している。また、地上における騒音対策については、小牧基地としては、できる限り、深夜や早朝のエンジンの試運転の実施を削減している。また、風向きを考慮するなど、騒音低減に努める。防衛省としては騒音の軽減に努めつつ、効果的な対策について、市とも調整の上、検討していく。
要望先	④東海防衛支局
内容	貴局の関係する試験飛行や機体整備等に伴う飛行騒音については、空港周辺地域への影響が著しいため、騒音発生状況を調査し把握するとともに、愛知県と共に、実効性のある対策を図ること。
回答	試験飛行を含める航空機の運用については、周辺地域への騒音の影響に配慮されるよう小牧基地に伝えていく。また、騒音対策の要望については当局からも県にも伝えていく。

要望事項	11 騒音の低減への配慮について
要 望 先	③防衛省 ④東海防衛支局 ⑤航空自衛隊小牧基地
内 容	騒音による影響が同一の地域・時間帯に集中しているため、愛知県名古屋飛行場に関する協定第7条の趣旨に則り、騒音影響のより少ない訓練空域・時間の設定など、周辺環境に配慮した運用に努めること。
回 答	基地周辺における訓練飛行及び航空機のエンジン試運転等について、必要最低限の時間で実施する等、周辺住民への可能な限り配慮に努めている。引き続き、愛知県名古屋飛行場に関する協定第7条に基づき、周辺環境に配慮した運用に努める。
要 望 先	⑥三菱重工業
内 容	航空機の整備にあたっては、機体やエンジン等の分解・検査等を要する整備や改修等において、空港周辺地域への著しい騒音による影響が懸念されるため騒音対策を十分に行い、適正に管理されたい。
回 答	航空機の整備については十分な騒音対策を行い、周辺の環境への影響低減に配慮している。

要望事項	12 周辺環境対策事業の実施について
要 望 先	①愛知県 ②名古屋空港事務所
内 容	愛知県名古屋飛行場に関する協定第7条の周辺環境対策を責任を持って行うこと。また、同条第2項に定める防衛省の果たすべき役割を認識するよう働きかけること。
回 答	周辺環境対策事業の重要性については、県としても十分認識しており、県財政が大変厳しい状況が続いている中ではあるが、春日井市始め地元市町等との協議を行い、制度の充実に努めている。

要望事項	13 エアフロントオアシス・移転補償跡地について
要 望 先	①愛知県 ②名古屋空港事務所
内 容	エアフロントオアシスについては、空港に親しむ緑化空間として整備され、多くの人が利用するものであるため、空港設置管理者として、県が国から借り受けるなどして、再整備し、管理されたい。
回 答	緩衝緑地帯については、当時の国が、騒音の非常に激しいエリア（W値95以上）において、法律に基づき整備を行ったが、現在はそのようなエリアは空港内に収まっており、県が空港外の緩衝緑地を取得し、整備する法的根拠や理由がない。 市で活用の意向があれば、国の交渉、調整等において、協力したい。
要 望 先	⑦大阪航空局
内 容	国土交通省が周辺環境対策として買い上げ、空き地のままとなっている移転補償跡地については、地域の活性化につながるよう、民間への売却等の有効活用策を計画的に推進されたい。
回 答	移転補償跡地については早期の売却が必要なため、立地や形状等から早期に売却が見込まれるものから順に予算の範囲内で調査を行っている。

要望事項	14 コンクリート板塀の更新について
要望先	③防衛省 ④東海防衛支局 ⑤航空自衛隊小牧基地
内 容	飛行場東部の敷地境界にある老朽化したコンクリート板塀の遮音性について調査・報告し、景観に配慮した遮音壁へ改築するなど、真に効果のある対策を早急に実施すること。
回 答	コンクリート板塀の更新については、老朽具合を勘案しつつ、効果的な対策等や、更新の時期等について、春日井市とも調整の上検討する。

要望事項	15 名古屋空港周辺環境対策協議会の活動支援について
要望先	①愛知県 ②名古屋空港事務所
内 容	名古屋空港周辺環境対策協議会の活動を支援すること。
回 答	同協議会は、空港と周辺地域との共存のため啓発活動を始めとする事業に取り組まれ、事務局である春日井市に感謝する。 空港への親しみや理解を深めるための啓発事業や、地域の夏祭り等への助成等の事業を実施されており、県としても協力していく。
要望先	⑥三菱重工業
内 容	名古屋空港周辺環境対策協議会への多大なるご協力により、地域活動を円滑に進めることができているため、今後とも引き続き格別の配慮をお願いしたい。
回 答	協議会の目的を理解している。今後とも目的達成のための事業推進に協力したい。

要望事項	16 落下物対策の検討について
要望先	①愛知県 ②名古屋空港事務所
内 容	国における航空機からの落下物対策について情報収集し周知するとともに、地域住民の不安を解消するため県営名古屋空港においても落下物防止対策や落下物による被害等に対する補償等が図られるよう検討されたい。
回 答	引き続き、国の動向等を注視し、必要に応じて、対応する。

要望事項	17 情報提供について
要望先	①愛知県 ②名古屋空港事務所
内 容	空港施設及び利用に変更等が生じる場合は、速やかに情報を提供されたい。
回 答	空港施設及び利用に変更等が生じた場合は事案に応じて適切に広報していく。
要望先	③防衛省 ④東海防衛支局 ⑤航空自衛隊小牧基地
内 容	小牧基地における施設整備計画、自衛隊機の運用及び緊急着陸や部品落下等の情報は、愛知県や春日井市への提供にとどめることなく、直接かつ速やかに周辺住民にも提供すること。
回 答	施設整備計画の情報については、近畿中部防衛局のホームページで公表しており、関係自治体に対しては、速やかに提供している。 自衛隊機の運用や事故等の情報提供への御要望については、可能な限り対応していく。

Ⅱ 他空港調査

1. 目的

他空港の状況を調査・確認し、飛行場周辺対策に必要な知識や理解を深めることを目的とする。

2. 調査日

令和6年10月29日（火）から令和6年10月30日（水）

3 参加者

役員（会長・副会長・常任理事・理事等）及び事務局の計32名

（1）航空自衛隊小牧基地（愛知県小牧市春日寺1丁目1番地）

（2）石川県立航空プラザ（石川県小松市安宅新町丙92番地）

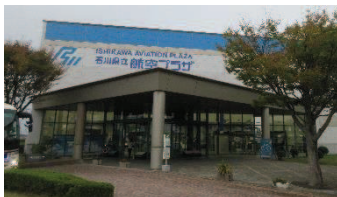
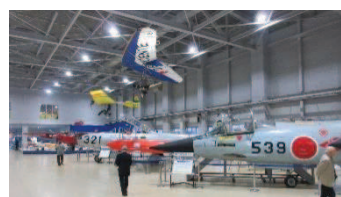
（3）小松空港（石川県小松市向本折町）

4 調査内容

（1）小牧基地について

日時	令和6年10月29（火）9：00～11：30		
応対者	監理部基地対策班 樋上班長、中川防衛事務官		
施設概要			
開庁	昭和33年	所在地	愛知県小牧市、春日井市、豊山町
基地の概要			
隊員数	約 2,000 人		
所在部隊	第1輸送航空隊、航空救難団整備群、救難教育隊、小牧管制隊、小牧気象隊、航空機動衛生隊、第5術科学校、小牧地方警務隊		
保有機	K／C－130H	輸送機／空中給油輸送機	KC－767 空中給油輸送機
	UH－60J	救難ヘリコプター	U－125A 救難搜索機
 基地の概要説明  KC-767 給油機能の説明  UH-60J の説明			

（2）石川県立航空プラザについて

日時	令和6年10月29日（火）16：30～17：00		
施設概要			
施設構成	航空プラザ、航空実験教室、研修室・会議室、ぶ〜んぶんワールド		
航空機展示	F-104J 戦闘機、T-2 ブルーインパルス 等		
・設置は石川県。日本海側では唯一の航空機の博物館である。 ・ジェット戦闘機等様々な航空機を展示し、視覚、聴覚、触覚で航空文化に接することができる。 ・各種シミュレーターや幼児向けの大型遊具、小松基地及び小松空港の歴史や概要等に関する展示があり、世代を問わず航空・空港や基地の活動について学ぶことができる施設である。			
 施設外観  基地・空港に関する展示  多数の実機を展示			

（3）小松空港について

日時	令和6年10月30日（水）10：00～10：30
----	--------------------------

対応者	北陸エアターミナル(株)代表取締役社長 南井浩昌、常務取締役 山本直樹		
施設概要			
開港	昭和 36 年 12 月	所在地	石川県小松市
飛行場種別	共用空港	滑走路	長さ 2,700×幅 45m
滑走路	第 11 飛行教育団	運用時間	7:30～22:30(15 時間)
【基本情報】			
・小松空港は昭和 36 年 12 月に航空法第 56 条の 5 に基づく「公共用の施設」として告示 ・航空自衛隊小松基地（昭和 36 年 2 月開設）との共用空港（管理者：防衛大臣） ・国内線に加え、国際線（ソウル、上海、台北、香港（運休中））、国際貨物（ルクセンブルク、アゼルバイジャン（運休中））			
1 小松空港をとりまく現状			
・平成 27 年 3 月に JR 金沢駅、令和 6 年 3 月に JR 小松駅で北陸新幹線が開業、令和 2 年以降の新型コロナウイルス感染拡大などの影響により国内線旅客数は減少している。 ・国内線旅客数の減少は、乗客の 7 割は羽田便であるなか、昨今の働き方改革（リモート、Web 会議等）、コロナ禍後、航空会社が機体を小型機に変更等の影響と分析している。 ・国内線旅客数はこれ以上回復しないと見込まれ、今後の活用促進を模索している。			
2 小松空港中期ビジョン策定検討委員会			
・石川県では、小松空港における中期ビジョン策定のため、令和 2 年から、同委員会において第 2 滑走路の検討をはじめ、空港の在り方の検討（ターミナルビルの改築・建替、民営化等）を進めている。			
(1)第 2 滑走路			
・小松空港の 2,700 メートルの本滑走路は航空自衛隊小松基地のものを民間航空が使用しており、スクランブル等、自衛隊の隊務のための飛行が優先され、国際線の再開や増設も防衛省の認証等が必要であり、増便に繋がりにくいため、県、県議会は民間専用の第 2 滑走路について構想した。 ・本滑走路の北側から、航空法に規定される 210m をあけ、ターミナルビル、エプロン、駐車場等の移設とともに滑走路設置の検討を行うも、防衛省側が難色を示し、現在中断としている。			
(2)ターミナルビル改築及び民営化			
・昭和 56 年に国内線、59 年に国際線のターミナルビルを建設。鉄骨造で、建築後 40 年を経たが、能登半島地震の際も大きな被害はなかった。将来的に建て替えは必要とされている。 ・空港を運営する北陸エアターミナルビル(株)は、県が 35%、小松市が 15%を出資する第 3 セクターであるが、完全な民営化を企図し、空港の全体のあり方を含め、委員会で検討されている。			
3 空港周辺のまちづくり			
・空港及び地域の振興という点から、周辺の環境整備及び開発が進捗している。 ・小松基地及び空港周辺には周辺財産（防衛省の土地）が点在する。区画整理事業により、防衛省の周辺財産を 1 つに集約するなど、土地の有効活用を図っている。これにより、地元の金融機関等が望む、空港隣接地への大型アリーナの誘致に繋がった。 ・小松市は、ものづくり産業が盛んであり、空港周辺で安宅新地区土地区画整理事業を進め、企業誘致のよう分譲用地を令和 6 年度に完売した。			
4 能登半島地震と空港			
・平成 25 年に、小松市と北陸エアターミナルビルとの間で、津波時における一時避難施設としての使用に関する協定を締結した。能登半島地震の際に 80 名程度の地域住民が避難した。一般客 400 人、従事者 130 人も津波を避け一時的にビルに避難した。ビルに備蓄していたアルファ米、飲料水等や、機内配付の菓子等の配布には、日本航空、全日空の職員も対応にあたった。			
【課題】			
・避難指示解除等、正しい情報の把握と伝達（避難者の混乱を招く） ・BCP で想定していない事案への対処（元旦等、職員の出勤が困難） ・支援物資の供給の在り方。（パン等は市が提供の約束） ・災害時の緊急時対応には想定外の事態が常に起こる前提に立ち、過去の災害から「学び」、その経験、知識を踏まえた対応を図る。			



スカイパークこまつ共生
の丘から基地を望む



空港ビル内での説明



展望デッキから滑走路を望む

(4) 小松基地の周辺対策について

日時	令和6年10月30日（水）10：30～11：00
応対者	小松市総合政策部長 藤井勝司、空港・基地政策課長 竹田直樹
ア 主な内容 ・小松市の場合、周辺対策や騒音対策は、基地がある関係上、ほぼ防衛省が行っている。 ・小松市では長年、騒音区域や住宅防音工事対象範囲の見直しを要望していた。 ・令和7～9年度までに、既存のF15戦闘機に代えて、F35A及びF15能力向上型を配置することに伴い、防音工事の補助対象の家屋について、昭和59年12月20日までに建設されたものであったが、令和8年度に、防音工事区域を見直す方針のもとで、第1種区域で85W以上の区域について、段階的に、現在、告示日後住宅の防音工事を進めている ・国は、最終告示後の昭和59年12月21日から平成16年10月20日までに建設した住宅を告示日後住宅の対象とし、今年度から順次、申込者の家屋に対しての防音工事を実施している。 イ 小松飛行場周辺整備協議会 ・昭和54年1月に設立、小松市の騒音区域内の105の町内会の会長らが共同で組織 ・主な活動内容は、住民の声を国へ伝えるため毎年、各町内会から資料に記載されている安全対策や騒音対策に関する要望事項を取りまとめ、小松基地と、近畿地方防衛局及び要望書の提出や、意見交換の実施。 ・騒音測定機により、毎年地点を変え数か所で騒音測定を実施。	

5. ま と め

小松空港は北陸新幹線の開通等を受け、国内線の旅客数の回復が見込めず、今後の空港利用について大きな課題を抱えている。コミュニティ航空等を拠点とする県営名古屋空港においては、コロナ禍前の旅客数を上回るものの、燃料の高騰の影響等が懸念されている。小型機の拠点空港を維持し基地との共存共栄を図り、地域の持続的な発展が重要と考える。

当日、小松基地から戦闘機の離陸の際に発する騒音は、名古屋空港・小牧基地とは比較できないほど大きかった。空港周辺が受ける航空機騒音への対策、安全飛行の確保は共通の問題であり、関係機関への継続的な働きかけが必要かつ重要である。

能登半島地震における小松空港が市民の一時的避難施設として活用された。現在、愛知県は、豊山町において南海トラフ地震等基幹的広域防災拠点整備を進めており、機能的かつ地域住民への安心・安全を提供する効果的な施設整備を期待したい。

Ⅲ 航空機の緊急着陸に伴う申入

令和6年度 航空機の緊急着陸に伴う申入

事例1	
発 生 日	令和6年4月15日（月）
申 入 日	令和6年4月16日（火）
申 入 先	航空自衛隊小牧基地
申 入 事 由	C-130H 輸送機において、午後0時10分頃、油圧系統の不具合が確認され、午後0時15分に県営名古屋空港に緊急着陸 ※別添申入書参照
飛 行 目 的	自衛隊機の操縦等訓練
飛行への影響	無し。
人的物的被害	無し。
申 入 事 項	・原因究明について ・機材整備及び安全飛行の徹底について ・再発防止への万全の措置について
再発防止策等	・入念な飛行前及び飛行後の点検を行い、飛行安全に万全を期す。 ・整備点検要領及び部品の交換時期の短縮を検討中。

事例2	
発 生 日	令和6年6月11日（火）
申 入 日	令和6年6月12日（水）
申 入 先	航空自衛隊小牧基地
申 入 事 由	C-130H 輸送機において、午前10時33分頃、油圧系統の不具合が確認され、午前10時40分に県営名古屋空港に緊急着陸 ※別添申入書参照
飛 行 目 的	自衛隊機の操縦等訓練
飛行への影響	無し。
人的物的被害	無し。
申 入 事 項	・原因究明について ・機材整備及び安全飛行の徹底について ・再発防止への万全の措置について
再発防止策等	・入念な飛行前及び飛行後の点検を行い、飛行安全に万全を期す。

事例3	
発 生 日	令和6年7月3日（水）
申 入 日	令和6年7月4日（木）
申 入 先	航空自衛隊小牧基地
申 入 事 由	C-130H 輸送機において、午前9時27分頃、エンジン系統の不具合が確認され、午前9時35分に県営名古屋空港に緊急着陸 ※別添申入書参照
飛 行 目 的	自衛隊機の錬成訓練
飛行への影響	無し。
人的物的被害	無し。
申 入 事 項	・原因究明について ・機材整備及び安全飛行の徹底について ・再発防止への万全の措置について
再発防止策等	・入念な飛行前及び飛行後の点検を行い、飛行安全に万全を期す。

事例 4	
発 生 日	令和 6 年 8 月 9 日（金）
申 入 日	令和 6 年 8 月 21 日（水）
申 入 先	防衛相（東海防衛支局）
申 入 事 由	イタリア空軍所属の F-35 戦闘機において、機体の不具合が確認され、午後 0 時 50 分に県営名古屋空港に緊急着陸 ※別添申入書参照
飛 行 目 的	日伊共同訓練
人的物的被害	無し。
申 入 事 項	・イタリア空軍はじめ関係各国に対し、機体整備の徹底及び安全飛行と事故防止を求めることについて

事例 5	
発 生 日	令和 7 年 3 月 3 日（月）
申 入 日	令和 7 年 3 月 4 日（火）
申 入 先	航空自衛隊小牧基地
申 入 事 由	T-4 練習機において、浜松基地天候不良による目的地変更で、燃料枯渇の恐れがあり、午前 10 時 15 分に県営名古屋空港に緊急着陸
飛 行 目 的	自衛隊機の操縦等訓練
飛行への影響	無し。
人的物的被害	無し。
申 入 事 項	・飛行前の気象状況の確実な把握について ・安全な訓練飛行の徹底について ※機体の異常ではなく不可抗力(天候の変化)のため、口頭のみ。
再発防止策等	・無理ない飛行訓練の実施に努める。

申 入 書

令和6年4月15日、小牧基地所属C-130H輸送機において、午後0時10分頃、油圧系統に不具合が確認され、午後0時15分に県営名古屋空港に緊急着陸したとのことであります。

貴基地所属の同型機は、昨年5月31日に、油圧系統の不具合により、緊急着陸しています。日常的に市街地上空で飛行訓練が実施されるなか、再度、こうしたトラブルが繰り返されたことは、空港周辺住民に大きな不安と貴基地の安全飛行に対する取り組みに疑念を抱かせるものであり、極めて遺憾であります。

つきましては、度重なるこうした事態を真摯に受け止め、原因を速やかに究明し、その対策を明らかにされたい。また、二度とこのようなトラブルを起こさないよう、小牧基地所属の全ての機体の機材整備及び安全飛行の徹底を図り、再発防止に万全の措置を講じられるよう申し入れるとともに、誠意ある回答を文書で求めます。

令和6年4月16日

航空自衛隊小牧基地司令

鮫 島 建 一 様

春日井市飛行場周辺対策市民協議会

会 長

申 入 書

令和6年6月11日、小牧基地所属C-130H輸送機において、午前10時33分頃、油圧系統に不具合が確認され、午前10時40分に県営名古屋空港に緊急着陸したとのことです。

貴基地所属の同型機は、昨年5月31日及び本年4月15日にも、油圧系統の不具合により緊急着陸しています。日常的に市街地上空で飛行訓練が実施されるなか、再三、こうしたトラブルが繰り返されたことは、空港周辺住民に大きな不安と貴基地の安全飛行への取り組みに対する疑念を抱かせるものであり、極めて遺憾であります。

つきましては、度重なるこうした事態を真摯に受け止め、原因を速やかに究明し、その対策を明らかにされたい。また、二度とこのようなトラブルを起こさないよう、小牧基地所属の全ての機体の機材整備及び安全飛行の徹底を図り、再発防止に万全の措置を講じられるよう申し入れるとともに、誠意ある回答を文書で求めます。

令和6年6月12日

航空自衛隊小牧基地司令

鮫 島 建 一 様

春日井市飛行場周辺対策市民協議会

会 長

申 入 書

令和6年7月3日、小牧基地所属C-130H輸送機において、午前9時27分頃、エンジン系統に不具合が確認され、午前9時35分に県営名古屋空港に緊急着陸したとのことであります。

貴基地所属の同型機は、本年4月15日及び6月11日にも、油圧系統の不具合により緊急着陸しています。再三の申し入れにもかかわらず、こうしたトラブルが繰り返されたことは、空港周辺住民に大きな不安と貴基地の安全飛行への取り組みに対する疑念を抱かせるものであり、極めて遺憾であります。

つきましては、度重なるこうした事態を真摯に受け止め、原因を速やかに究明し、その対策を明らかにされたい。また、二度とこのようなトラブルを起こさないよう、小牧基地所属の全ての機体の機材整備及び安全飛行の徹底を図り、再発防止に万全の措置を講じられるよう申し入れます。併せて、地域住民が理解・納得できる誠意のある回答を文書で求めます。

令和6年7月4日

航空自衛隊小牧基地司令

鮫 島 建 一 様

春日井市飛行場周辺対策市民協議会

会 長

申 入 書

令和6年8月9日、イタリア空軍のF-35戦闘機において、機体の不具合が確認され、県営名古屋空港に緊急着陸したとのことです。

近年、自衛隊及び他国軍所属の航空機に関するトラブルが相次ぐ中、このような事態が発生したことは、空港周辺の住民に大きな不安を与えるものであります。

今後、二国間・多国間における共同訓練がこれまで以上に展開されることが見込まれる中、こうした事態が再び起こらないよう、イタリア空軍をはじめ関係各国に対し、機体整備の徹底、安全飛行と事故防止を求めることを申し入れます。

令和6年8月21日

防衛大臣 木 原 稔 様

春日井市飛行場周辺対策市民協議会

会 長

IV 航空機の部品落下に関する申入

発 生 日	令和6年4月15日（月）
申 入 日	令和6年4月17日（水）
申 入 先	航空自衛隊小牧基地
所 属	航空自衛隊岐阜基地
機 体	C-2輸送機
落 下 部 品	主翼中央上面前方右側のパネル取り付け部品 ボルト 30 本（内訳：直径 0.4cm, 長さ 1.5cm, 重さ 1.2g 28 本、 直径 0.4cm, 長さ 1.5cm, 重さ 2.2g 2 本） ワッシャ（座金）26 個（直径 1.6cm, 厚さ 0.2cm, 重さ 0.6g） ※別添申入書参照
落 下 事 由	・ 4 月 15 日（月）にボルト 1 個、ワッシャ 2 個の落下物発見。その後の点検においてボルト 30 個、ワッシャ 26 個の紛失を確認。 ・ パネルを止めてあったネジ等が仮止め状態で運行したため。
人的物的被害	無し。
部 品 の 発 見	部品の発見には至っていない。
飛行への影響	無し。
申 入 事 項	・ 機材整備及び安全飛行の徹底について ・ 再発防止への万全の措置について
再発防止策等	一層入念かつ確実な点検を実施

申 入 書

令和6年4月15日に実施された岐阜基地所属のC-2輸送機の点検において、ボルト30本及びワッシャ26個の部品の紛失が確認されたとのことです。

この機体は岐阜基地所属の機体であるものの、4月2日に小牧基地及びその周辺地区において飛行がなされており、運行航路間で部品落下の可能性があったことは、空港周辺住民に大きな不安と自衛隊の安全飛行に対する取組みへの疑念を抱かせるものであります。

今回の部品の紛失については、日常の機体の整備及び点検などが適切に行われているのか疑問を抱かざるを得ません。

つきましては、こうした事態を真摯に受け止め、原因究明や措置の状況などについて、岐阜基地と情報共有を図るとともに、小牧基地においても全ての機体についての整備及び安全飛行の徹底に努め、事故防止に万全を期すよう申し入れます。

また、小牧基地を利用する全ての航空機においても同様の措置が講じられるよう申し入れます。

令和6年4月17日

航空自衛隊小牧基地司令

鮫 島 建 一 様

春日井市飛行場周辺対策市民協議会

会 長

V 航空機の部品落下に関する報告

上半期部品落下報告会

発 生 日	令和6年5月30日（木）
報 告 日	令和6年10月22日（月）
所 属	航空自衛隊浜松基地
機 体	T-400 輸送機・救難機等基本操縦練習機
落 下 部 品	左エンジン前方の外板を取り付けている部品（ニッケル鋼製） リベットの頭部：直径約7mm、厚さ 約2mm、重さ 約1g、
落 下 事 由	・浜松基地着陸後の飛行後点検で発覚。 ・落下原因は不明。
人的物的被害	無し。
部 品 の 発 見	部品の発見には至っていない。
飛行への影響	無し。
再発防止策等	・一層入念かつ確実な点検を実施 ・飛行後の点検において、目視だけでなく触手による点検を追加

下半期部品落下報告会

事例1	
発 生 日	令和6年11月18日（月）
報 告 日	令和7年4月22日（火）
所 属	航空自衛隊那覇基地
機 体	T-4 練習機
落 下 部 品	増槽タンクを固定する安全ピンのストリーマー（布）（ナイロン製） ラック用地上安全ピンストリーマー 縦740mm, 横40mm, 厚さ1mm, 重さ32.6g 電気回路用地上安全ピンストリーマー 縦610mm, 横40mm, 厚さ1mm, 重さ15g ※安全ピンの抜き忘れを防ぐ目印としてのストリーマー（布）
落 下 事 由	・名古屋空港着陸時の飛行後点検にて発覚 ・点検漏れ
人的物的被害	無し。
部 品 の 発 見	部品の発見には至っていない。
飛行への影響	無し。
再発防止策等	・整備班の再教育の徹底

事例2	
発 生 日	令和6年11月19日（火）
報 告 日	令和7年4月22日（火）
所 属	航空自衛隊小牧基地
機 体	C-130H 輸送機
落 下 部 品	下部胴体灯の部品（ガラス製） レンズカバーの一部 長さ40mm, 幅40mm, 厚さ4mm, 重さ約14.8g
落 下 事 由	・夜間訓練飛行帰還後の飛行後点検にて発覚 ・落下原因は不明
人的物的被害	無し。
部 品 の 発 見	部品の発見には至っていない。
飛行への影響	無し。
再発防止策等	・当該部位の入念かつ確実な点検の実施

事例 3	
発 生 日	令和 6 年 11 月 26 日（火）～12 月 18 日（水）
報 告 日	令和 7 年 4 月 22 日（火）
所 属	航空自衛隊美保基地
機 体	KC-46A 空中給油・輸送機
落 下 部 品	翼前縁外板を固定するための部品（アルミ製） リベット 10 個：長さ 16mm, 頭部直径 6mm, 重さ 1 g 未満
落 下 事 由	・美保基地帰還後の飛行後点検にて発覚 ・落下原因は不明
人的物的被害	無し。
部 品 の 発 見	部品の発見には至っていない。
飛行への影響	無し。
再発防止策等	・当該部位の入念かつ確実な点検の実施

事例 4	
発 生 日	令和 7 年 2 月 10 日（月）
報 告 日	令和 7 年 4 月 22 日（火）
所 属	航空自衛隊小松基地
機 体	F-150DJ 戦闘機
落 下 部 品	エンジンフェアリング（ジェットエンジン排気口内側）部品（樹脂製） クリップ：縦約 20mm, 横約 10mm, 厚さ約 3mm, 重さ約 1.3g
落 下 事 由	・三菱重工での定期点検にて発覚 ・落下原因は不明
人的物的被害	無し。
部 品 の 発 見	部品の発見には至っていない。
飛行への影響	無し。
再発防止策等	・当該部位の入念かつ確実な点検の実施

（参考）部品落下のカテゴリーについて

カテゴリー	内 容
I	大きさ(面積)が 1000 cm ² 以上又は重量 1kg 以上の部品（材質によらず）
II	大きさ(面積)が 100 cm ² 以上 1000 cm ² 未満又は重量が 0.2kg 以上 1kg 未満の 非金属部品若しくは重量が 0.1kg 以上 1kg 未満の金属部品等。 また、下記については重量・材質・大きさによらずカテゴリー II として 取り扱う。 長さ 100 cm 以上のラバーシール ライト類の全損
III	上記区分に属さないもの
※国土交通省航空局安全部航空機安全課長発出 「航空機に係る不具合の報告・通報について」より抜粋	